

広島市立大学学術リポジトリ

成都方言における動詞後の“起来”について：“V
起来”と“V起+来”を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-01-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤原, 優美, FUJIWARA, Yubi メールアドレス: 所属:
URL	https://hiroshima-cu.repo.nii.ac.jp/records/9

成都方言における動詞後の“起来”について

— “V 起来”と“V 起+来”を中心に —

藤原 優美

The Use of “qilai” after Verbs in the Chengdu Dialect - Focusing on “V qilai” and “V qi+lai” -

Yubi FUJIWARA

The term “qilai” used after verbs is one of the important syntactic item in Chinese. It is a compound directional complement in Putonghua(Standard Mandarin) used to indicate the movement of a person/object from below to above, or the beginning/completion of an action. This syntactic item also exists in the Chengdu dialect, but it does not necessarily have the same meaning and usage.

In this paper, I will consider the use of “qilai” after verbs in the Chengdu dialect. After examining “qilai” and “qi+lai” according to internal structures, I will compare the meaning and usage of “V qilai” and “V qi+lai” in the Chengdu dialect and Putonghua(Standard Mandarin).

I はじめに

II 先行研究および本研究の研究手法

1. 普通話（共通語）における“起来”に関する先行研究
2. 成都方言における“起来”に関する先行研究
3. 成都方言における動詞後の“起”に関する先行研究
4. 先行研究に残された課題
5. 本研究の研究手法

III 成都方言における“V 起来”

1. 方向義
2. 開始・持続義
3. 完成義
4. 評価義

IV 成都方言における“V 起+来”

1. 形だけの“起”
2. 結果補語としての“起”
3. アスペクト助詞“着”相当の“起”
4. “V 起来”か“V 起+来”

V おわりに

体でもさまざまな意味・用法を持つため、学習者にとってわかりにくい点があり、「実際に使いこなすのは容易ではない（丸尾 2011）」。

一方、成都方言にも“V 起来”がよく使われている。

(1-1) 开头还要得好好的，过后不晓得为啥子扛起来了。（『成都方言詞典』1998）

（初めのときはまだよく遊んでいたが、その後なぜか喧嘩しはじめた。）²

(1-2) 把作业本交起来。（張 1998）

I はじめに

“起来”は単独では動詞として用いられるが、動詞後に使うこともできる。動詞後に付く“起来”は、中国語の重要な文法項目の一つであり、普通話（共通語）では複合方向補語¹と見なされている（呂 1980、劉 1998）。ほとんどの中国語の初級テキストでも扱われている。しかし、テキストにスペースなどの制約もあって、また“V 起来”自

(宿題ノートを提出してください。)

(1-3) 这一带路不好找, 只好一路问起来。

(張 1998)

(この辺が分かりにくいので、ずっと聞きながら来たのです。)

(1-1) の場合、“起来”は動詞“打”の後ろに用いられ、“打”が表す「喧嘩する」という動作が始まると指している。これは普通話(共通語)としての際と同じ使い方となるが、(1-2) の場合、動詞“交”の後の“起来”は普通話(共通語)にない用法であり、普通話(共通語)の「人・事物が動作によって下から上へ向かうこと」や「動作の開始、持続の意味」を表すのではなく、「人・事物が遠いところから近いところへ向かって水平に移動すること」を表すと張(1998)が指摘されている。(1-3) の“问起来”について、張(1998)では、“起”は北京方言の“着”に相当し、“来”は一般動詞であることを示した。

つまり、成都方言の“V 起来”と普通話(共通語)の“V 起来”と必ずしも同じ意味・用法を有するとは限らない。また、(1-3) のように“起”と“来”はそれぞれ意味を表しているならば、動詞後につく“起来”は一つの語として考察すべきか、それともそれぞれ一つの語で分けて考察すべきか、細かく分析する必要がある。

本研究では、成都方言における動詞の後に付く“起来”について考察し、その内部構造により“起来”と“起+来”の二種類に分け、普通話(共通語)との対照もふれながら、“V 起来”と“V 起+来”の意味・用法を究明したい。

II 先行研究および本研究の研究手法

1. 普通話(共通語)における“起来”に関する先行研究

これまで動詞後に付く“起来”について、さまざまな先行研究が行われていた。特に複合方向補語として捉えたものが多く、呂(中国語版 1980、日本語版 1992)³、劉・潘・故(1983)、劉(1998)、丸尾(2014)などがあげられる。

呂(中国語版 1980、日本語版 1992)によれば、“起来”は「趨向動詞」⁴として、「動詞+起来 [+名詞(ふつうは動作の対象、ときには主体)]」のように用いられ、以下の意味・用法があげられて

いる。

① 人・事物が動作によって下から上へ向かうことを表す。

(2-1) 捡起来一块石头。石を一つ拾い上げる。

(2-2) 从后排站起来一个人。

後列から誰か立ち上がった。

② 動作の完成を表す。併せて「集中する」「目的・結果に達する」意味を表す。

(2-3) 集中起来 集中する。

(2-4) 他藏了起来。彼は隠れてしまった。

③ 動作の開始を表す。併せて持続の意味を表す。

(2-5) 欢呼起来。歓呼の声があきこった。

(2-6) 飞轮旋转起来了。

はずみ車が回転し出した。

④ 挿入句または文の前部になる。推測、あるいは「ある面に着眼すれば」の意味を表す。

(2-7) 看起来, 这件事他不会同意的。

どうやらこの件には彼は同意しそうもない。

(2-8) 这篇文章读起来很耐人寻味。

この文章は読めば読むほど味が出てくる。

劉・潘・故(1983)では、複合方向補語である“起来”は動作を通じて事物を低い状態から高い状態に上げることを表すと定義され、さらにその派生的用法についても述べられた。

① 動作が事物を分散した状態から集中した状態へ変えることを表す。

(2-9) 团结起来。団結する。

(2-10) 我把南瓜子包了起来。

私はカボチャの種を包んだ。

② 動作や状況が始まりさらに継続することを表す。

(2-11) 欢腾起来。喜びにわきかえる。

(2-12) 哭起来。泣き出す。

③ 話し手が事物のある面に着目し、事物に対して見積もりまたは評価を行うことを表す。

(2-13) 这件事说起来容易, 做起来难。

このことは言うは易く、行うは難いだ。

(2-14) 那辆自行车骑起来真轻, 一点也不费劲。

その自転車は乗ってみると実に軽くて、少しも力がいらぬ。

劉(1998)では、方向補語の統語的意味について記述し、複合方向補語としての“起来”を以下

のように三つの意味区分をしている。

- ① 方向義：人・物が低い所から高い所への移動を表す。
- ② 結果義：a 継ぎ合わせる、固定させることを表す。b 突き出る、隆起することを表す。
- ③ 状態義：新しい状態に入ることを表す。

丸尾（2014）では、分化された“起来”の開始義、完成義、持続義について、上記劉（1998）の三つの区分の文法的意味との関連性に言及しつつ考察された。

以上の先行研究を見れば、研究者による研究ポイントや解説はそれぞれ少し違い・ズレがあるものの、普通話（共通語）における動詞後の“起来”は基本的意味・用法である方向義があるほか、開始・持続義、完成義、評価義も持っていることは明らかである。具体的は以下の通りである。

- ① 方向義（基本的な意味・用法）：人・事物は動作によって下から上に向かう。
- ② 開始・持続義：動作の開始を表す。併せてその持続の意味を表す。
- ③ 完成義：動作の完了を表す。併せて「集中する」「目的・結果に達する」意味を表す。
- ④ 評価義：話し手が事物のある面に着目し、事物に対して見積もりまたは評価を行うことを表す。

2. 成都方言における“起来”に関する先行研究

成都方言における動詞後の“起来”についての先行研究はそれほど多いとは言えないが、『成都方言詞典』（1998）や、張（1998）、張・張・鄧（2001）などがあげられる。ただし、張・張・鄧（2001）は張（1998）の再掲であり、内容は同じものとなっている。

『現代漢語方言大詞典』の分巻の一つである『成都方言詞典』（1998）では、動詞後につく“起来”については以下のように記載されている。

- ① 動詞や形容詞の後に用いて、動作・状況の開始や継続を表す。

(2-15) 开头还要得好好的，过后不晓得为啥子打起来了。 ((1-1) 再揭示)

(初めのときはまだ仲良く遊んでいたが、その後なぜか喧嘩しはじめた。)

- ② 動詞の後に置いて、上に向くことを表す。

(2-16) 中国人民站起来了。

(中国人は立ち上がった。)

- ③ 動詞の後に用いて、動作の完成や目的の達成を表す。

(2-17) 我这个人记性不好，随便咋个都想不起来。

(私ったら記憶力が悪く、どう考えてもちっとも思い出せない。)

張（1998）では、成都方言にある“V 起来”“V 起去”“V 起 xy”について、北京方言にない意味・用法を中心に考察した。“V 起来”“V 起去”の“起来”と“起去”はそれぞれ一つの語、すなわち複合方向動詞として見なすことができるが、遠いところから近いところ、または近いところから遠いところへ向く水平移動を表すため、動作によって下から上へ向かうという意味がない。その場合、“起”を省略することができる。また、“起”は北京方言の“着”のようにアスペクト助詞⁵として用いられるとき、その後の“来”は方向補語ではなく、動詞である。一方、“V 起 xy”について、“V 起来”“V 起去”より難しい形式であると指摘し、簡単に“V 起来”“V 起去”と同じ解釈ができないため、動詞後の“起”をさらに細かく分析する必要があると示した。

3. 成都方言における動詞後の“起”に関する先行研究

成都方言における動詞後に付く“起”について、方言辞典のほか、“倒”との対照分析が多く見られる。張（1991）、李（2008）などがあげられる。

『成都方言詞典』（1998）には、動詞の後に使う“起”について以下のような意味・用法が掲載されている。

- ① 下から上へ、座るや寝ている状態から立つ状態になることを表す。

(2-18) 站起来。(立ち上がる。)

- ② 動作結果の有無を表す。

(2-19) 考得起考不起? (受かるか受かれないか。)

- ③ 催促を表す。

(2-20) 走起点儿。(はやく歩きなさい。)

- ④ 動作、状態の持続を表す。

(2-21) 有理无理，中间耸起。

(どんな時でもよく真真中に立っている。)

- ⑤ アスペクト助詞、“着”に相当する。

(2-22) 我吃起饭在。(私はご飯を食べている。)

- ⑥ 命令や言い聞かせの語気を強める。

(2-23) 把门敞起, 屋头空气不好。

(ドアを開けておいて、部屋の空気が悪いから。)

張(1991)では、“倒”と“起”を動態助詞の“倒₁”と“起₁”と補語の“倒₂”と“起₂”に分類し、“倒₂”と“起₂”は論じる対象から除き、“倒₁”と“起₁”について考察された。そこで、“倒₁”は動態動詞の後に使い、動態の持続を表す；“起₁”は主に静態動詞と組み合わせ、静態の持続を表すという結論に至った。

李(2008)では、“倒”と“起”を、動詞の後に付く方向補語である“倒₁”と“起₁”、動詞の後に付く結果補語である“倒₂”と“起₂”、持続を表すマーカの“倒₃”と“起₃”、動作・行為の完了を表す“起₄”と分類し、その意味用法について考察した。最後に“起₄”の意味が「虚化(形だけ残り、意味を持たない)」したことも指摘された。

方言辞典と先行研究を通して、成都方言における動詞の後に付く“起”にはさまざまな意味・用法があることがわかった。本研究では、“V起+来”を考察する際、方言辞典と先行研究を踏まえながら、その“起”は具体的にどの意味・用法に当たるかを明らかにしたい。

4. 先行研究に残された課題

上述2. であげられた『成都方言詞典』(1998)の解説からわかるように、成都方言における“起来”は、上に向く方向義、開始・継続義、完成義の三種類の意味・用法を持っているが、評価義については特に記述がないため、実際の使用状況を調べなければ、評価義を持っていないか、それとも単に辞書に掲載されていないかなどはわからない。また、張(1998)では方向義について、成都方言の“V起来”は遠いところから近いところへ向く水平移動を表すことができると指摘しているが、普通話(共通語)と同じく使えるものについて考察していないため、開始・持続義、完成義、評価義の記述は見当たらなかった。“起”の省略可能、動態助詞的な意味・用法などが示されたが、さらに細かく分析する必要があるという結論に留まり、具体的な考察はまだ行われていなかった。本研究では、成都方言における“V起来”を“V+起来”と“V起+来”に分けて、“起来”が持つ方向義は普通話(共通語)との同じなのか、ま

た開始・持続義、完成義、特に評価義を持っているかどうか、“V起+来”の場合、“起”はどのように解釈するかなどについて考察し、できるだけ成都方言における“V起来”の全体像を明らかにしたい。

5. 本研究の研究方法

本研究では、成都方言における動詞の後に付く“起来”について、その内部構造により“起来”と“起+来”の二種類に分けて考察する。具体例を挙げながらそれぞれはどのような意味・用法があるのかについて分析する。成都方言のデータベースはまだ公開されていない⁶ため、具体例は『成都方言詞典』(1998)と先行研究のほか、主に小説『兩代滄桑』(2015)より抽出した。ただし、今回は意味・用法に関する考察なので、例文の計量的な作業は今後の機会に譲る。作例⁷も少しながらあるが、その成立・不成立の判定を含め、文献より抽出した例文の意味などについての判断は、インフォーマントとして成都方言のネイティブスピーカーにご協力いただいた。インフォーマントとしては、20代2名(男1名、女1名)、30代2名(男1名、女1名)、40代2名(男1名、女1名)、50代2名(男1名、女1名)、60代2名(男1名、女1名)の計10名の成都方言のネイティブスピーカーであり、10名とも成都生まれ成都育ち、成都市外で半年以上の居住歴がなく、家庭内も成都方言を使用している。

『兩代滄桑』(2015)は、約百三十五万文字のノンフィクション長編小説である。これまでの方言小説と違い、徹底的に方言で書かれたものである。より多くの読者にわかってもらうため、ほとんどの方言小説は、文中の人物の会話は方言を使用し、その他の文章については、昔は白話⁸、現在は普通話(共通語)で書かれている。しかし、『兩代滄桑』の場合、著者自身は成都方言のネイティブスピーカーであるにもかかわらず、文献調査や語句等の検証、何十人もの成都生まれ成都育ちの高齢者へのインタビューを通して、全文は忠実に成都方言・四川方言で書かれている。⁹そのため、抽出した例文は本研究での分析対象としてふさわしいと判断した。なお、『兩代滄桑』より抽出した例文は成都方言なのか、それともその上位範疇の四川方言なのかについて、成都方言のネイティブ

スピーカーに確認し、判定してもらった。

Ⅲ 成都方言における“V 起来”

前の章でも示したように、普通話（共通語）における動詞後に付く“起来”は方向義、開始・持続義、完成義、評価義を持っている。成都方言にも同じ意味・用法があるのか、以下考察したい。

1. 方向義

- (3-1) **站起来。**（『成都方言詞典』1998）
 （(2-18）再揭示）

（立ち上がる。）

- (3-2) **我要扫地，你把脚抬起来一哈！**
 （掃除をするので、足をちょっと上にあげて。）

- (3-3) **春妹子总是捡起来如数交给主人。**
 （『两代滄桑』2015）

（春妹子はいつも拾い上げて、全部持ち主に返す。）

- (3-4) **古井都扯不起来水了。**（『两代滄桑』2015）
 （古い井戸から水が汲みあがれなくなりました。）

(3-1) “站起来”は動作主の姿勢の変化を表す。座るや横になっている、あるいはしゃがむ状態などまだ立っていない状態から立つように、姿勢が上向きに移動するため、“起来”の「下から上への移動」という意味を表す。『成都方言詞典』(1998)では、“起”の項目に掲載されているが、単純方向補語¹⁰の“起”と単純方向補語の“来”が組み合わせた複合方向補語“起来”と見なすべきである。

(3-2) の“抬起来”は聞き手が自分の足を上にあげることを指す。(3-1) が示した移動の方向と同じであるが、移動の部分が違う。(3-1) は動作主の身体の移動、(3-3) は動作主の身体の一部の移動となる。

(3-3) は小説の中では、主人公である春妹子は家政婦の仕事をし、部屋を掃除するとき、たまにテーブルの下や、ベッドの端っこところで小銭を見つけるが、一銭も欠けずに全部家主に返すという描写である。この“捡起来”は動作主の動作によって、対象である小銭などが地面から手の平に、つまり下から上へ移動したことを表す。

(3-4) の“扯不起来”は“扯得起来”の否定、つまり、可能補語¹¹「動詞+得+方向補語」の否定形「動詞+不+方向補語」となり、“扯起来”という井戸にある水を地上に汲み上がる動作の実現が不可能であることを表す。ここでは、移動は動作の対象となる井戸水を指す。

以上のように、成都方言における動詞後の“起来”は「下から上への」方向義を持っていることがわかる。その際、表す方向に移動するのはそれぞれ動作主自身、動作主の身体の一部、動作の対象となりうる。また、方向義の場合、可能補語の形「動詞+得/不+起来」が使える。これは普通話（共通語）の中でも同じように使われている。

2. 開始・持続義

- (3-5) **上了花轿，轿帘一放下来，春妹子再次掩面哭起来……**（『两代滄桑』2015）

（御輿に乗って、御簾が下ろされると、春妹子は再び顔を隠して泣き出した…）

- (3-6) **春妹子同舒掌柜寒暄起来。**
 （『两代滄桑』2015）

（春妹子は舒店主とあいさつしはじめた。）

(3-5) の“哭起来”は、春妹子が「泣いていない状態」から「泣く状態」へ切り替えたことを表し、“起来”の開始義と見なすことができる。また、泣きはじめたらそのまま泣く状態がしばらく続くので、“起来”は泣く動作の開始、併せて持続までカバーしている。(3-6) も同じように、“寒暄起来”は動作の主体があいさつをするため、「喋っていない状態」から「喋る」状態に変わる。また、二人が話し合うので、その喋る状態は短時間続くこととなる。ここでも“起来”は開始・持続義を持つことがわかる。これらは普通話（共通語）が持つ意味・用法と同じである。

3. 完成義

- (3-7) **两条河加起来也当倒卢家场的琼江大。**
 （『两代滄桑』2015）

（二つの川が合わせれば盧家場の琼江ぐらいになる。）

- (3-8) **他的名字，前几天我还想起来，咋个现在就搞忘了？**（張清源 1998 による）

（彼の名前、先日はまだ思い出せて、どうして今忘れたの？）

(3-7) では、二つの川を盧家場の瓊江と比較しているが、盧家場の瓊江の面積が大きい、または流域が長い、二つの川を足したらその大きさか長さ匹敵する。“起来”は“加”が表す動作「足す」の完了を表す。また、二つのものを足してその総量を見るという点は、個々のものを集中する意味もあり、完成義に当たる。

(3-8) では、話し手は先日、彼の名前を思い出そうと、記憶の中で検索して、結果、思い出さることができたため、“想起来”が使われた。つまり、“起来”は動作の完了を表す。

上記のように、成都方言における動詞後の“起来”も普通話（共通語）と同じく、完成義を持っている。

4. 評価義

(3-9) 说起简单，做起来名堂还深沉。

（『两代滄桑』2015）

（言うのは簡単だけど、やるのはいろいろややこしいところがある。）

(3-10) 林三妈把房子打扫干净，看起来还是清清爽爽的。（『两代滄桑』2015）

（林三のお母さんが部屋をきれいに掃除したので、見たらさっぱりとしている。）

(3-9) では、話し手は言及したことを実行した後の感想、「ややこしいところがある」について話している。(3-10) では、林三のお母さんが事前に掃除したため、話し手が見た部屋はとてもきれいだ。そのきれいな部屋に対して、「さっぱりしている」という評価をつけた。つまり、(3-9) (3-10) は両者とも“起来”の評価義を使って、話し手があることに着目し、それに対して感想・評価を行うことを表す。方言辞典には特に記載されていないが、実際のところ、成都方言における動詞後の“起来”は普通話（共通語）と同じく、評価義を持っていることがわかった。

IV 成都方言における“V 起+来”

前述のように、成都方言における動詞後に付く“起来”は必ずしも一語とは限らない。一見“V 起来”の形であるが、“V +起来”と“V 起+来”の二通りに分けることができる。以下は“V 起+来”について考察したい。

1. 形だけの“起”

(4-1) 今天不上班，你跑起来做啥子？（張 1998）
（今日は仕事の日じゃない、来て何をするの？）

(4-2) 服务员把饭菜端起来了。（張 1998）
（店員は料理を運んできた。）

(4-3) 把马老师请起来，哪个敢妖艳儿！
（『成都方言詞典』1998）
（馬先生を呼んで来て、誰がいたずらするものか！）

(4-1) の場合、仕事の日ではないのに、聞き手が自宅またはほかの会社ではないところから会社に来たのを見て、話し手が質問した文である。“跑起来”は聞き手「あなた」が話し手に遠いところから近いところへ移動したことを表す。(4-2) の場合も、料理が下から上への移動ではなく、店員が料理を持って、話し手の遠いところから近いところに向かってくることを指す。(4-3) は『成都方言詞典』に掲載されている例文であるが、掲載の場所は“起来”意味・用法項目ではなく、“妖艳儿”を解釈する際の例文として掲載されている。馬先生をほかのところから今話し手がいるところに呼んでくるまたは招待してくると解釈できる。つまり、話し手にとって、馬先生は遠いところから自分に近いところに移動することとなる。

上記三つの文においては、移動するのは、(4-1) は動作主、(4-2) は動作の対象、(4-3) も動作の対象となるが、(4-2) はもの、(4-3) は人である。具体的に言えば、(4-1) は「あなた」、(4-2) は運ばれた料理、(4-3) は「馬先生」となる。これらは先行研究（張 1998）でも指摘されたように、下から上への移動ではなく、遠いところから近いところへの移動となる。そうすれば、“起来”は複合方向補語としてまとまって用いて意味を表すのではない。また、成都方言における方向補語として使う際の“起”の基本的意味には、人や物が動作によって下から上に向かうことであり、遠いところから近いところへの移動を表す意味がない。そのため、(4-1)、(4-2)、(4-3) における「遠から近へ」の移動を表すのは“起”ではなく、さらに後の“来”となる。この場合、“起”が持っている移動の意味がなくなり、たとえ省略しても文の意味もあまり変わらない。つまり、“起”は形だけ残っており、“来”は「遠から近へ」の移

動の意味を表すこととなる。普通話（共通語）の場合、“起来”は使わず、“跑来”“端来/端过来”“请来”の形で表現する。

一方、小説『两代滄桑』を調べたところ、以下の文が見つかった。

(4-4) 华老头也热心, 赶紧跑来帮忙。
 (『两代滄桑』2015)

(華氏のお爺さんは親切で、すぐに手伝いに来た。)

(4-5) 林三嫂端来一碗荷包蛋。
 (『两代滄桑』2015)

(林三の嫁さんはポーチドエッグを運んできた。)

(4-6) 把章老头儿请来。(『两代滄桑』2015)
 (章氏のお爺さんと呼んできて。)

(4-4)、(4-5)、(4-6)を見れば、前の(4-1)、(4-2)、(4-3)とほとんど変わらないことがわかる。つまり、(4-4)の“跑来”は(4-1)の“跑起来”と、(4-5)の“端来”は(4-2)の“端起来”と、(4-6)の“请来”は(4-3)の“请起来”と同じ意味・用法となる。前述では、(4-1)、(4-2)、(4-3)の場合、“起”は形だけ残っており、“来”は「遠から近へ」の移動の意味を表すと示したが、(4-4)、(4-5)、(4-6)の場合、その形だけの“起”がなくなり、“来”のみ使われている。(4-1)、(4-2)、(4-3)の出典元である方言辞書や先行研究はともに1998年のものであり、(4-4)、(4-5)、(4-6)の出典元は2015年のものである。十五年以上も経ったため、言語の使用状況も変わるだろうと推測できる。また、普通話（共通語）の普及も進んでおり、このような、形だけ意味を持たない“起”を省略し、普通話（共通語）に近い意味・用法に変わった可能性がある。

2. 結果補語としての“起”

(4-7) 文章明天就写起来。(張 1998)
 (文章を書き終えて明日持って来て。)

(4-8) 稿件给你打起来了。(張 1998)
 (資料をプリントアウトして持ってきてあげました。)

(4-7)(4-8)の意味を見ていくと、(4-7)は、文章を書き終えて、そのできたものを持ってくる。(4-8)は、資料をプリントアウトして、紙の状態のものを持ってきた。ここでわかるのは、各物や

人が移動する前に、その前の動作が終わったことが求められている。つまり、(4-7)(4-8)の動詞“写”“打”が表す動作、「書く」こと、「印刷する」ことが完了している。張(1998)でも指摘されたように「“起”はその完了を表していて、動詞の後ろに用いられる結果補語¹²となる」。しかし、動詞の後に複数の補語を連続に使用することができないため、この場合、“V起”「動詞+結果補語」の後の“来”は方向補語ではなく、方向動詞として用いられる。普通話（共通語）の場合、“起来”は使わず、“写好送来”“打印好送来”といった形で表現する。

一方、上記の(4-1)～(4-6)と違い、(4-7)と(4-8)の動詞には移動性がない。(4-1)～(4-6)の場合、“跑(走る)”、“端(運ぶ)”、“请(来てもらう)”は移動動詞であり、後ろに直接に方向補語を付けて、移動の方向を表すことができる。しかし、(4-7)と(4-8)の場合、“写”“打”は移動動詞ではなく、動作を続けながら移動するという意味でもない。前の動作が完了し、そこで得られたもの・成果が移動するため、普通話（共通語）のように違う形に変えるか、“起”などの語を使って前の動作の完了を示す必要がある。

3. アスペクト助詞“着”相当の“起”

(4-9) 这一带路不好找, 只好一路问起来。

(張 1998, (1-3)再揭示)

(この辺が分かりにくいので、ずっと聞きながら来たのです。)

(4-10) 挤得很, 莫得坐的, 就站起来来的。

(すごく混んでいて、座るところがなかったので、ずっと立ったまま来たのです。)

(4-11) 他随便开声腔, 高中、大学的才女硬是求之不得, 还不蓬起蓬起来给他献媚?

(『两代滄桑』2015)

(彼が口を開きさえすれば、高校や大学の才媛たちはみな喜んで、争って彼に媚を売りに来るだろう?)

(4-9)の話し手は最初に聞き手と違う場所にいて、そこから聞き手のところに移動し、到着したらこの文を話したと推測できる。遠いところから近いところへ向かっての水平移動のため、“起来”の中にこの意味を表すのは“来”である。つまり、“起”の移動義がなくなった、あるいは他の補語

などとして用いられることが考えられる。“起来”の前の動詞“問”に着目すると、話し手は移動の間、何回も道を聞いたため、「聞く」という動作を繰り返していたことがわかる。そうすれば、“起”はその動作の繰り返し状態の持続を表すこととなり、普通話(共通語)のアスペクト助詞“着”の意味・用法に近い。この場合、“来”は補語ではなく、方向動詞となる。

(4-10)では、最初に背景・原因が説明された。おそらくバス等の公共交通機関の車内で、混んでいるため、話し手が降りるまでずっと立つ状態を維持するしかない状況にあるだろう。ここの“站”は持続的な動詞であり、“起”は動詞が表す「立つ」という状態の持続を表す。普通話(共通語)の“着”に相当する。そして、“来”は方向動詞である。一方、もし最初に背景や原因が説明されていない、つまり前提がない場合、“站起来”の意味用法についての解釈はまた違うだろう。例えば、立ち上げるなど。

(4-11)の場合はわかりやすく、“蓬起蓬起来给他献媚”は“蓬起蓬起”+“来给他献媚”の組み合わせである。“蓬起蓬起”は才媛たちが積極的に“来给他献媚(彼に媚を売りに来る)”という行為を繰り返して行く様子を描写している。アスペクト助詞“着”が持つ「動作の進行・状態の持続を表す」意味に当たる。

4. “V起来”か“V起+来”

(4-12) 把娃娃牵起来。

(4-13) 把娃娃抱起来。

(4-14) 把娃娃牵起来，不要抱起来。

(張清源 1998)

(4-12)(4-13)の場合、前文がないため、三通りの解釈ができる。一つ目は、(4-12)子どもを引き上げて；(4-13)子どもを抱き上げて。二つ目は、(4-12)子ども(と手を繋いで)連れて来て；(4-13)子どもを抱いて来て。三つ目は、子どもと手を繋ぎながら来て；(4-13)子どもを抱きながら来て。一つ目は“V+起来”で、子どもが動作によって下から上へ向かっての移動を表す。二つ目は“V起+来”で、“起”は形だけ残っており、省略することができる。“来”は「遠から近へ」の移動の意味を表す。三つ目も“V起+来”で、“起”は動詞が表す動作「手を繋ぐ」「抱く」の持続を

表し、アスペクト助詞“着”に相当する。そして、“来”は方向動詞で、遠いところから近いところへの移動を表す。

一方、(4-14)について張(1998)では、“V起”は北京方言の“V着”に相当し、“来”は方向補語ではなく、一般動詞であると指摘された。つまり、“起”は動作の持続を表し、アスペクト助詞“着”の意味に近い。しかし、(4-14)は対照的な文でありながら、(4-12)(4-13)のようにアスペクト助詞“着”に相当のほか、もう一つの解釈もできる。つまり、「子どもと手を繋ぎながら来て、抱きながら来ないで」という意味以外、「子どもを引き上げて、抱き上げないで」という意味も説明できる。このとき、“V+起来”の形となり、“起来”は複合方向補語である。

したがって、“V起来”の形だけでは必ずしも意味・用法を正確に判断できないことがある。前文や文脈なども含めて考える必要がある。これは普通話(共通語)にない、成都方言における意味・用法の特徴となる。

V おわりに

本研究では、成都方言における動詞の後に付く“起来”について、“V起来”と“V起+来”に分けて考察した。以下の意味・用法を持っていることが明らかになった。

“V+起来”の場合、成都方言も普通話(共通語)と同じく、方向義、開始・持続義、完成義、評価義の四種類の意味・用法を持っている。

①方向義の場合、動詞後の“起来”は「下から上への」方向を示し、その際、表す方向に移動するのはそれぞれ動作主自身、動作主の身体の一部、動作の対象となりうる。また、方向義の場合、可能補語の形「動詞+得/不+起来」が使える。②開始・持続義の場合、動作の開始、併せてその持続の意味を表す。③完成義の場合、動作の完了を表す。その際、分散するものが集中すること、目的や結果に達する意味を表す。④評価義の場合、方言辞典に特に記載されていなかったが、実際のところ、成都方言における動詞後の“起来”は普通話(共通語)と同じく、評価義を持っていることがわかった。その際、話し手が事物のある面に着目し、事物に対して見積もりまたは評価を行う

ことを表す。

一方、“V 起+来”の場合、以下のような意味・用法となっている。

① “起”は元々動詞の後に付く方向補語として用いられ、動作による下から上へ、低いところから高いところへの移動を表す。しかし、文中にそういった意味がなく、遠いところから近いところへの移動となる場合、“起”が持っている移動の意味がなくなり、形のみ残っている。その際、“来”は方向補語のままとなる。一方、小説から抽出した例文と方言辞書や先行研究のものと比較すると、小説の方が“起”を使用していないことがわかった。これは時間の推移とともに言語の使用状況が変わったと推測し、また、普通話（共通語）の普及につれて、形だけ残り意味を持たない“起”が省略され、普通話（共通語）に近い意味・用法に変わった可能性がある。

② “起”は動詞の後に付いて、結果補語としても用いられる。その際、“起”は事物が動作の結果、出現すること、併せて持続の意味を表す。「動詞+結果補語」の後にさらにもう一つの補語を動詞に付けることができないため、“V 起”の後の“来”は方向補語でなく、方向動詞となる。

その他、③普通話（共通語）にあるアスペクト助詞“着”と相当し、動作・状態の持続を表すことができる。その際、前に使う動詞は普通、持続的な動詞が多いが、非持続的な動詞、例えば瞬間動詞でも文中で重複の意味を有する場合には、その表す動作は続けることができる（戴 1997、丸尾 2014）。例えば、(1-3) (同 (4-9)) の“问起来”、“问”は非持続的動詞であるが、「聞く」という動作が何回も繰り返せば、“起”はその状態の持続を表すことができる。その際、後ろの“来”は補語ではなく、方向動詞となる。

上述のように、成都方言における“V 起来”はいくつかの意味・用法がある。前提や背景、原因・制限などが明記していない場合、どの意味・用法として用いられているのか、複数の解釈ができることがある。例えば (4-14) について、張 (1998) では、“V 起”は北京方言の“V 着”に相当し、“来”は方向補語ではなく、一般動詞であると指摘されたが、前提などがなかったため、“V + 起来”の形として捉えることもできる。その際、“起来”は複合方向補語であり、動作による下から上への

移動を表す。このように、一見“V 起来”の形であるが、前文や文脈などによって“V 起来”と“V 起+来”の二通りの解釈ができる。これは普通話（共通語）にない、成都方言の特徴である。したがって、成都方言における“V 起来”の意味・用法を分析する際、前文や文脈なども含めて考える必要がある。

本研究では、成都方言における動詞の後に付く“起来”について考察し、その内部構造により“起来”と“起+来”の二種類に分け、普通話（共通語）との対照もふれながら、“V 起来”と“V 起+来”の意味・用法をまとめ、成都方言における“V 起来”の全体像を明らかにしたが、用いる具体例の量は必ずしも多くとは言えない。今後は日常生活や書籍などに使用されている語句をさらに調査する必要がある。また、“起来”と対照する“起去”や、成都方言にある他の補語などについても研究したい。これらは今後の課題とする。

注

- 1 複合方向補語：複合方向補語は、“上”“下”“进”“出”“回”“过”“起”“到”が表す方向と、“来”“去”が表す方向を合わせた方向を表す。例えば“上来”なら、動詞の表す動作を通じて人・物が低い所から高い所へ上り、かつ基準点に近づくという方向を表す。（東京外国語大学モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/gmod/contents/explanation/051.html> 最終閲覧日 2022 年 7 月 20 日）
- 2 日本語訳については、筆者によるものは（ ）に入れてあり、元々日本語訳が付いているものは（ ）を使わない。以下も同様。
- 3 『中国語文法用例辞典（現代漢語八百詞増訂本日本語版）』（1992）：『現代漢語八百詞』（呂叔湘主編、商務印書館、1980 年）の日本語による全訳本。
- 4 趨向動詞：動詞の下位分類、遠いところから近いところへ、近いところから遠いところへ、低いところから高いところへ、高いところから低いところへ、中から外へ、外から中へなどの方向またはその他の虚化意味を表す。単純と合成の二種類ある。単純方向動詞は“来、去、进、出、上、下、回、过、起”など；複合方向動詞は単純方向動詞より組み合わせられ、例えば“进来、进去、出来、出去、上来、上去、下来、下去”などがある。（『現代漢

- 語詞典（第七版）』商務印書館、pp.1078：動詞の附類，表示从近到远，从远到近，从低到高，从高到低，从里到外，从外到里等趋向或其他虚化的意义，分单纯的和合成的两种。单纯的趋向动词是“来、去、进、出、上、下、回、过、起”等。合成的趋向动词由单纯的趋向动词组成，如“进来、进去、出来、出去、上来、上去、下来、下去”等。）
- 5 アスペクト助詞は、動詞のある種の文法的意味、すなわちアスペクトを表す。“着”は動作の進行・状態の持続を表す。（王占華（2004）『中国語学概論（改訂版）』駿河台出版社、pp.142）
- 6 成都方言データベース：「四川言語資源保護プロジェクト」は2016年より始動し、成都、内江、自貢などの二十個の方言調査点で各方言を収集し、データベースを構築すると発表されたが、2022年現時点においてその成果となる書籍『中国語言資源集・四川』はまだ販売されていないようである。（四川日報2019.01.08 http://sc.wenming.cn/yw/201901/t20190108_4965052.shtml 最終閲覧日2022年7月20日）
- 7 作例：引用は例文の後に出典が書かれているが、何も書いていないのは筆者の作例である。
- 8 白話：漢語文語の一種。唐宋以来、口語に基づいて形成されたもので、最初は通俗文学作品に用いられ、“五・四運動”後普遍的に使用され、現代漢語（普通話）の文語形式となった。（『現代漢語詞典（第七版）』商務印書館、pp.24：汉语书面语的一种。它是唐宋以来在口語基础上形成的，起初主要用于通俗文学作品，到五四运动以后才在社会上普遍应用，成为现代汉语（普通話）的书面形式。）
- 9 著者による『兩代滄桑』の紹介、具体的な創作過程が書かれている。（『《兩代滄桑》之“序”：老人不讲古，后生会失谱』騰訊新聞 2019.11.21 <https://new.qq.com/omn/20191121/20191121A02ACX00.html> 最終閲覧日2022年7月20日）
- 10 単純方向補語：動詞の後について、動詞の表す動作によって人や物が移動する方向を表す補語を「方向補語」と言う。単純方向補語“来”は、動詞の表す動作を通じて人・物が基準点に近づくことを表す。単純方向補語“起”は、上へ向かい「起きる」意味を表す。（東京外国語大学言語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/gmod/courses/c01/lesson15/> 最終閲覧日2022年7月20日）
- 11 可能補語：結果補語や方向補語から作られた、そ

れらの補語が表す結果を実現することができるかできないかを表す補語を「可能補語」と言う。（東京外国語大学言語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/gmod/courses/c01/lesson16/step1/card/054.html> 最終閲覧日2022年7月20日）

- 12 結果補語：一部の単音節動詞や形容詞が動詞の直後に付き、動作行為がもたらす結果を表す成分を「結果補語」と言う。（東京外国語大学言語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/gmod/courses/c01/lesson14/step1/card/047.html> 最終閲覧日2022年7月20日）

参考文献

- (1) 日本語
- 丸尾誠（2011）「中国語の方向補語について—日本人学習者にとってわかりにくい点」『言語文化論集』32巻、pp.77-89
- 丸尾誠（2014）『現代中国語方向補語の研究』白帝社
- 劉月華・潘文娉・故韡（1983）『現代中国語文法総覧』相原茂監訳、片山博美・守屋宏則・平井和之訳くろしお出版
- 呂叔湘主編（1992）『中国語文法用例辞典（現代漢語八百詞増訂本日本語版）』牛島徳次・菱沼透監訳 東方書店
- (2) 中国語
- 戴耀晶（1997）『現代漢語時体系統研究』浙江教育出版社
- 李苑（2008）「成都話的“倒”和“起”」『現代語文』第2期、pp.81-82
- 劉月華（1998）『趨向補語通釋』北京語言文化大学出版社
- 王文虎・張一舟・周家筠（2014）『四川方言詞典』四川人民出版社
- 張清源（1991）「成都話的動態助詞“倒”和“起”」『中国語言學報』第4期、pp.84-101
- 張清源（1998）「成都話的“V起来、V起去”和“V起xy”」『方言』第2期、pp.144-149
- 張一舟・張清源・鄧英樹（2001）『成都方言語法研究』巴蜀書社
- 周宗富（2015）『兩代滄桑』白山出版社